

ガンバレ!がんばれ! 徳島ガンバロウズ!! ～初参戦での活躍と2年目の飛躍に向けて～

上席研究員 蔭西義輝

筆者の昨シーズンの観戦を通じて

当研究所機関誌「徳島経済 No.109 2022 年 Autumn」では、男子プロバスケットボール B リーグへの参入を目指す徳島ガンバロウズを取り上げた。将来 1 部リーグに当たる B リーグ・プレミアに昇格し定着を目指す同クラブそしてホームタウンの徳島にとって必要となる条件(売上高・入場者数・アリーナ)、既存クラブの経営状況、全国のアリーナ整備などについて紹介している。

上記調査に当たって、運営会社(株)がんばろう徳島や関係する方々から貴重な意見をいただいたことに対する感謝もあって、筆者は 2023-24 シーズンのファンクラブ・ゴールド会員に入会した。その中の特典としてホーム戦の開幕戦チケットが含まれていたため、「勝ってほしいけど、B3 参入 1 年目なので、良いゲームをしてほしい」という気持ちで 2023 年 10 月 6 日に開催された開幕戦を観戦した。

良い意味で期待を大きく裏切られることに。試合会場のアスティとくしまに開場前の 17:00 ごろに着いたのだが、平日金曜日の開催にもかかわらず長蛇の列ができていた。試合前のセレモニーイベントも、洗練されたものだった。ゲーム中は、ガンバロウズの攻守のたびに入れ替わり流れてくるバックミュージックに乗って観客の多くが応援メガホンをたたき、手拍子を取っていた。格好いい 3 ポイントシュートが決まると、悲鳴も混じった大きな歓声と拍手に沸

いた。まるでロックのライブ会場にいるような感じで、あっという間にゲーム終了を迎えた。80-91 での敗戦となり少し残念な気持ちがあったが、「観にきてよかった」との感想を持った。会場を出る観客をみると、ニコニコ笑顔にあふれている方が多い印象を受けた。

写真1 開幕戦観客入場前の様子 (2023.10.6)

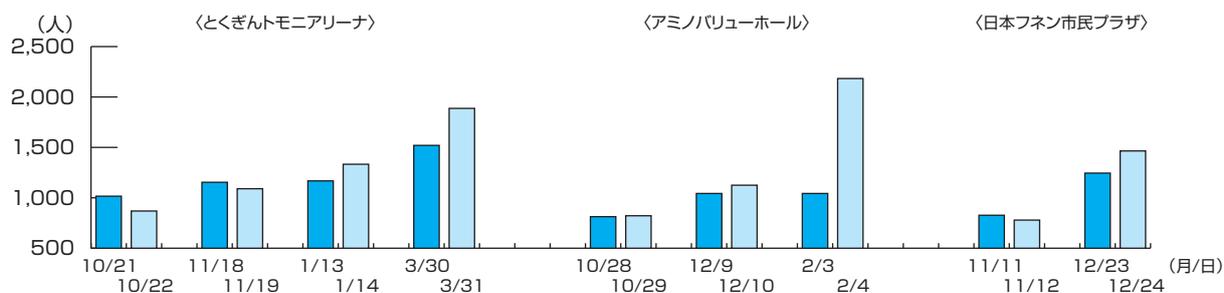


(場所: アスティとくしま 筆者撮影)

B3 リーグの試合は 2 日間連戦で行われるというので、翌日も観戦した。今回は 76-72 で勝利。「勝っちゃった」と、「うれしい」だけではなく“びっくり”が混じり合った感情でいっぱいになった。対戦相手の横浜エクセレンスは前シーズンで B2 リーグへの昇格をかけたプレーオフに進出した強豪であり、「ガンバロウズは強く、リーグ上位の実力を持っており、プレーオフには進出できるのではないかと期待が膨らんだ。

そのときのゴールド会員の特典には 2 階自由

図表 徳島ガンバロウズ 2023～24 シーズン ホームゲーム入場者数（4 試合以上開催した 3 会場分）



資料：B3 リーグ公式ホームページ

席引換券 10 枚が含まれていたこともあって、その後はスケジュールが空いている限りほとんど観戦してきた。勝利したゲームが多く、逆転劇も少なからずあって、このチームの魅力に引きつけられた。

12 月 23～24 日に行われた香川ファイブアローズ戦は、隣県対決のダービーマッチということもあって、立ち見客も多かった中のゲームとなった。結果は 2 連敗と厳しいものだったが、参入 1 年目のプロスポーツクラブとしては当初の想定を超える素晴らしい興行成績を収めていると感じた。

その“感じ”が“確信”となったのは、年が明けた 1 月 13～14 日に行われたヴィアティン三重戦である。その前の 1 月 6～7 日で行われたアウエー福井ブローウィンズ戦で連敗し、上記香川戦も含め 4 連敗となったことで、「シーズン 8 位以内に入りプレーオフに進出できたとしても、福井、香川を倒すのは難しいだろう。残りのシーズンは消化ゲームの色合いが強くなるかもしれない。」と筆者は弱気になっていた。ところが、開場の何時間も前から列に並んでいる観客は全然減ってはおらず、むしろ増えている印象を受けた。ゲーム中の応援もまったく衰えてはいない。観客・ファンの多くがブースター（熱烈にチームを応援するファンのことであり、サッカーでのサポーターと同じ位置付け、と言われているが、100%オーソライズされた用語ではなさそうである）に“進化”している、と確信した。

その後も多くのファン・ブースターに見守ら

れ熱い声援を受けながらシーズンが進み、レギュラーシーズンはリーグ 18 チーム中 5 位で終わった。図表はホーム戦 2 節 4 試合以上を行った会場の入場者数を表しているが、徐々に増加していることが見てとれ、ファン・ブースターが着実に拡大してきた、といえる。

上位 8 チームが進出したプレーオフでは、クォーターファイナルは埼玉ブロンコスに勝利したが、勝てば B2 リーグ昇格となるセミファイナルでは福井ブローウィンズと対戦し、2 戦目では接戦を演じたものの惜しくも敗れた。

写真 2 プレーオフパブリックビューイング (2024.4.19)



(場所：松茂町交流拠点施設 Matsushigate (マツシゲート) 筆者撮影)

この結果、2024-25 シーズンも引き続き B3 リーグで戦うこととなった。当然ながら、プレーオフに進出し上位 2 チームまでに勝ち残って、B2 リーグ昇格をぜひとも成し遂げてもらいたいと願っている。

今シーズンのスタートに当たって

本稿がみなさまの目に届くのは、今 2024-25 シーズンが始まった直後だと思われるが、ここでは執筆時点までにおけるクラブとしての動きや取組を紹介する。

まず、指導者とプレーヤーの陣容だが、好調だった昨シーズンからの継続性を重視するという色彩が強く、ヘッドコーチ（HC）はデマーカス・ベリー氏と再契約し、今シーズンも彼が指揮を執ることとなった。アシスタントコーチは、ゲーム中ベリー氏に劣らない勢いでプレーヤーを鼓舞してきたダニエル・キム氏や久川貴之氏が昨シーズンから継続して就任した。プレーヤーも、今シーズン当初 13 人のうち 9 人が再契約である。昨シーズンチーム得点王となり得点リーグトップ 5 にランクインしたテイブリオン・ドーソン選手をはじめとして、国内外の他チームからオファーがあったと思われるプレーヤーが多く残ってくれたことで、クラブとして昇格へ向けた意志が強く伝わってくる。さらには、ファン・ブースターも合わせた上で、ガンバロウズというクラブは複数のチームを渡り歩いてきた歴戦のプレーヤーをもしっかりと引き付ける大きな魅力を持っている、と筆者はお世辞ではなく考えている。

前シーズンの公式試合は 4 月に終了したが、ファン・ブースターまたスポンサー企業へのアピールの場はそれ以降も積極的に設けられてきた。クラブの公式 WEB に掲載されているイベントは以下のとおり。

- ① 5/11（土）紅白戦 in 那賀町
- ② 5/14（火）シーズンエンドパーティ
- ③ 5/19（日）2023-24 シーズンファン感謝祭
- ④ 8/9（金）公開練習 in 松茂町
- ⑤ 8/29（木）新体制発表会兼チェアマン来県イベント
- ⑥ 9/7（土）公開練習 in 那賀町

上記はクラブが主催したものだが、ほかでもさまざまなイベントが行われてきた。阿波銀行では、5/18（土）、8/24（土）の 2 回、プレーヤーを招いたイベント（トークショー、交流会、サイン会、クイズ大会など）を本店営業部内あわぎん BASE において開催した。このようにファン・ブースターとプレーヤーそしてクラブとの接点が多く設けられてきており、「おらがまちのクラブ」「わたしたち県民に近い存在のクラブ」のイメージを定着させる活動が続けられてきた。

写真 3 交流イベントの様子（2024.5.18）



（場所：阿波銀行本店営業部内あわぎん BASE 筆者撮影）

B3 リーグ優勝・B2 リーグ昇格に向かって

筆者は、先述の⑥「公開練習 in 那賀町」を観に行った。約 250 人のファン・ブースターが会場に詰めかけ、筆者も熱気あるトレーニングと紅白戦に見入った。

紅白戦では、今シーズンから他チーム所属から新たに加わったプレーヤーに特に注目が集まっていた。中でも、昨シーズンドイツ・ブンデスリーガ（1 部）でプレーしたエヴァン・マックスウェル選手は、208cm の体格を生かして、「これぞセンター」という動きを見せた。また、他の選手にも 3 ポイントも含めシュート力があるところが見られ、昨シーズンからの再契約プレーヤーも「負けてはられない」と発奮が伝わるプレーが随所に現れていた。チームとして

昨シーズン不足していた“ピース”を埋めてきた、という感想を持つことができた公開練習であった。この終了後運営会社(株)がんばろう徳島の臼木郁登社長と筆者は話をしたが、「プレイヤー全員が、ポジション争いの最中ということもあって、かなり真剣にプレーしていた。収穫があったと思う。」旨の発言があった。

写真4 公開練習 in 那賀町 (2024.9.7)



(場所：とくぎんトモニアリーナ那賀 筆者撮影)

今シーズンの運営面をみると、ゲーム進行において最も重要な役割を担うアリーナ MC は、昨シーズンに引き続きフリーアナウンサーの佐藤好さんこのみ(NHK 高知放送局スポーツキャスター)とお笑い芸人の古谷健太さん(徳島を中心にライブや MC で活躍中)が務めることになった。昨シーズンの盛り上がりの一翼を担った実績は、今シーズンさらにバージョンアップすることになるに違いない。

クラブオリジナルの楽曲提供についても、PACHI-YELLOW さん (DJ・ターンテーブルリストの第一人者、奥さまは徳島出身) と KO-ney さん (ヒップホップ楽器 MPC のわが国屈指のプレイヤー) が結成したプロデュースチーム「Finger Clickz」が引き続いて担う。昨シーズンを上回る演出が期待される。

今シーズンのホーム戦の試合会場は、ホームタウンである徳島市のとくぎんトモニアリーナ(徳島市立体育館)での開催が8試合から12試合に増加する(2025年4月19～20日開催のレ

ギュラーシーズン最終戦の会場は本稿執筆時点では調整中であり、これに含めていない)。昨シーズンのホーム最終戦もそこで行われ、1,887人の入場者数を記録した。今シーズンは常にこれを上回ってほしい、と願っている。

今シーズンも引き続きゼネラルマネージャー(GM)を務めるザック生馬氏は、再契約の合意を伝えるWEBにおいて以下のコメントを述べられている。

「何よりも私にとって嬉しかったことは温かいファンコミュニティが確立されたことです。ガンバロウズを通して、みなさんがより仲良くなり、元気になったということをいろいろな人から伺いました。これこそがプロスポーツ球団の地域に対する貢献だと信じています。」

今度は、ファン・ブースター、オフィシャルパートナー(スポンサー企業)、ホームタウン(徳島県・徳島市)、フレンドリータウン(那賀町・小松島市・松茂町)が核となった上で、県全体でクラブを盛り上げ、B3リーグ優勝・B2リーグ昇格に向けて力強く後押ししていきたい。

追記 アリーナの必要性について

現在の日本の男子プロバスケットボールはB1・B2・B3の3つのリーグで構成されているが、2026-27シーズンから「Bリーグ・プレミア」「Bリーグ・ワン」「Bリーグ・ネクスト」に変わる。これに当たっての大きな変化は、競技成績による昇降格をなくし、主にクラブの経営水準などがベースとなって所属するリーグが決まる、というものである。中でも、Bリーグ・プレミアに所属を希望するのであれば、「平均入場者数4,000人・売上高12億円・(一定水準以上の設備を備えた)5,000席以上のアリーナの整備」が必要となる。

徳島ガンバロウズは、このBリーグ・プレミ

アに将来昇格し定着することを目指している。この念願を果たすためには、「5,000席以上のアリーナ」が県内で整備されることが必須である。

8月29日に開催された「新体制発表会兼チェアマン来県イベント」には筆者も参加したが、出席した後藤田徳島県知事と遠藤徳島市長からはアリーナ整備の決意・期待が述べられた。Bリーグの島田チェアマンは、全国各地でのアリーナ整備状況やその意義、必要性などについて言及した。

島田チェアマンの発言の中で、特に印象に残った2つ（概要）を紹介する。

「アリーナとはいえ、ホームチームのゲームで使用されるのは年間365日中2割にも満たない。コンサートや会議などのイベントを多く誘致していかないと、採算が取れない。誘致できれば、地域の活性化に大きくつながる。だからこそ、整備に当たっては他県から来る方の利便性もしっかり考慮する必要がある。」

「地域を愛しそこで住み続けていきたいというインセンティブ（誘因）の1つとして、そこにあるプロスポーツの存在が大きい、とい

写真5 島田チェアマンのトーク（2024.8.29）



（場所：とくぎんトモニアリーナ 徳島市立体育館 筆者撮影）

うことが指摘されている。地方の人口減少とそれに伴う衰退が進んでいる現状は承知しているが、Bリーグはこれに歯止めを掛け地域を盛り上げることを行動理念としている。」

筆者は、ガンバロウズがBリーグ・プレミアで活躍する姿を見たいので、アリーナ整備を念願している。でも、この整備が地域の活性化や豊かさにもつながるのであれば、それこそ「一石二鳥」と考えている。